

共有意思決定 (Shared Decision Making:SDM) ガイドによる
実践的勉強会を開催して ～乳がん患者の妊孕性温存事例の検討～

The effect of the practicing study meeting by a Shared Decision Making guide

○ 小松原千暁¹⁾、藤島由美子²⁾、上澤悦子³⁾、福田愛作¹⁾、森本義晴⁴⁾

1) IVF 大阪クリニック、2) 越田クリニック、3) 京都橘大学、4) HORAC グランフロント大阪クリニック

I. 目的

2017 年、小児・思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドラインが出版され、がん患者への妊孕性温存の情報提供と意思決定支援が重要となってきた。しかし、様々な人間関係と価値観の相違のなかで、多様な選択肢から患者自身がより良い意思決定をするのは困難な場合が多い。そのため、医療者が患者に十分な情報提供をし、患者の価値観やニーズを共有して支援する共有意思決定 (Shared Decision Making : SDM) ガイドにそった看護支援への実践的勉強会を開催した。

II. 方法

乳がん女性 2 事例を SDM ガイドによる 5 つのステップに基づき、意思決定支援過程について、がん看護と生殖看護の看護師合同のグループディスカッションおよびロールプレイを行った。参加者の SDM の理解度、SDM ガイド実践到達度等を質問紙調査し、質的記述的分析を実施した。倫理的配慮は、質問紙調査の内容を学会発表する事を説明し、匿名性の保持と回答の自由を保証し、同意した者の質問紙を回収した。

III. 結果

がん看護領域看護師 26 名、生殖看護領域看護師 26 名の合計 52 名が参加し、終了後の質問紙の回収率は 94.2%であった。SDM ガイドの 5 つのステップの到達度は、①「意思決定すべきことを明確にする」65.3%、②「自分の役割を決める」63.3%、③「意思決定のニーズを見極める」26.6%、④「選択肢を比較検討する」24.5%、⑤「次のステップを計画する」20.4%と回答した。全体の学びは、「患者自身が意思決定できるためには、必要な情報を適切な分野から正確に伝え、将来の生殖医療実施迄の長期計画を患者と共に検討すること」「短時間での情報提供にはツールの作成が必要」等であった。また、「体験したことで理解が深まった」と 93.9%が回答した。

IV. 考察

「意思決定の明確化、役割決定」は 6 割台の到達であったが、「意思決定のニーズ、選択肢の比較検討、次の計画」は 2 割台の到達度であったことは、がん領域看護師と生殖領域看護師それぞれ他方の領域の知識不足が影響していたと考える。しかし、高い専門性を必

要とする情報提供、価値観の共有には互いの領域の連携がより必要なこと、患者として、自分の考えや価値観、優先したいことを十分に語る事ができた体験が、次の意思決定につながることを理解できた勉強会であったと考える。

V. 結論

SDM ガイド事例検討会を継続し展開モデルや情報提供ツールを集積する必要がある。